

こ う べ の
森 の 未 来

2026 — 2035

まちと森をつなぐ。

神戸は森が身近な都市です。
都心のすぐ近くには、六甲山があります。
西区や北区には、
農地と里山が広がっています。
そのほとんどは、
かつて人の手が入っていました。
しかし、今、手入れをする人が減ってしまい、
森が元気をなくしています。
森の元気を取り戻し、
10年後、100年後に
引き継いでいくためには、
私たちが取り組んでいく
必要があります。
神戸の森の未来に向けて、
一緒に考え、
チャレンジしていきましょう。

こうべ森林整備戦略[2026年～]
神戸市内の森林の持続的な管理・再生に
向けた方針や取り組みをまとめました。
この冊子では、戦略の具体的な取り組みなどを
分かりやすく紹介しています。





神戸の森林の特徴と課題

神戸にはスギやヒノキの植林(人工林)が少なく、広葉樹林やアカマツ林が森林の大部分を占めています。これらの森林のほとんどは、かつては燃料や肥料などの採取に利用されていた里山林です。生活様式の変化によって森林が利用されなくなってから50年以上が経過する中、民家や道路のそばで木々が大きくなりすぎたり、常緑樹の増加で森の中が暗くなったり、竹林がひろがったり・・・など様々な問題が生じています。はげ山から緑化によって再生してきた六甲山の森林でも、緑化を開始してから120年以上が経過し、同じような問題が見られるようになってきています。

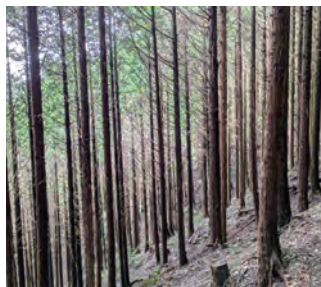
神戸が未来にわたって持続可能なまちであり続けるためには、身近に豊富に存在する森林の資源や機能を活かしていくことが重要です。そのために、森林との関係を再構築し、積極的に管理を進めていくことで、森林を健全な状態に維持していきます。



住宅にせまる大木



竹林の侵入、拡大



管理が不十分な人工林



倒木により山道がふさがった森林

DATA

市域の40% (22,000ha) が森林
森林の90%が広葉樹林やアカマツ林

- 人工林
- 広葉樹林など
- 竹林



▲ 森林を手入れし、活かすための基本方針

ΛΛΛΛΛΛΛΛΛΛΛΛΛΛΛΛΛΛ

3つのテーマを掲げ、それぞれ次の方針に沿って取り組みを進めます。



1 防災・減災

- 適正な管理により森林の機能向上を目指します。
- 流木や倒木による災害・事故のリスクを軽減します。



2 森林資源の循環利用

- 森林資源の利用を目的とした積極的な管理を進め、森林の健全化を図ります。
- 森林の空間など多様な資源を利用した民間ビジネスを創出します。



3 豊かな生活空間の形成

- 森林を保全・育成し、気候変動の影響の低減を図ります。
- 身近にアクセスできる良質な自然の確保を目指します。
- 豊かな農村や生物多様性、文化を保全します。

▲ 2035年の目標

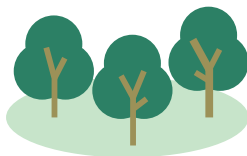
狀態目標 2035年

適正な状態にある森林が2025年時点よりも増加しています。
里山林の広葉樹資源の利用など、新たな取り組みの成果が現れています。

定量目標 2035年

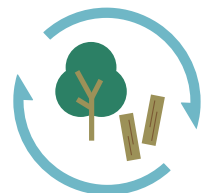
森林の整備面積
100ha/年(2025時点)

▼
300ha / 年



広葉樹の流通量
100m³/年(2025年時点)

▼
300m³/年



▲ 戦略のロードマップ

~~~~~

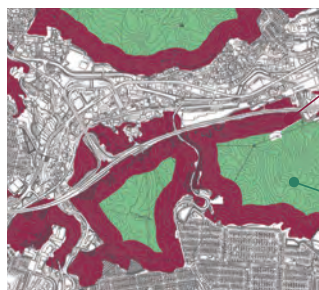
これまでのモデル的な取り組みを踏まえて、本概要版にも掲載している重点的な取り組みを2030年までの5年間に進め、その後さらに加速・水平展開していきます。



## ▲ 整備エリアの設定と方針



森林整備を進めるにあたり、市域の森林を「防災・減災優先エリア」と「整備・循環促進エリア」の2つのエリアに分類し、整備方針を定めます。



### 防災・減災優先エリア

#### 設定条件

道路や施設・民家に直接被害を及ぼすおそれのある箇所  
道路や施設・民家などから概ね50m以内

### 整備・循環促進エリア

設定条件 | 防災・減災優先エリア以外の箇所

## ▲ 防災・減災優先エリアの方針



道路沿いや施設・民家の裏等の枯木や大きくなりすぎた木を積極的に伐採していくことで、倒木などのリスクを減らします。

伐採した木の資源利用も進めていきます。



## ▲ 整備・循環促進エリアの4つの方針



多様な視点・価値観や森林の有する多面的な機能を最大限に活かすため、4つの方針に基づいて整備を進めます。対象とする森林ごとに、森林の立地条件や状態などに合わせて、それぞれの方針を掛け合わせることで、具体的な整備内容を検討します。

### 1 人の暮らしを支える



森林を適正に管理し、  
生活や産業の基盤を支える

### 2 資源を循環利用する



資源利用の観点から  
森林管理を促進する

### 3 森と関わる機会をつくる



身近に触れ、  
学ぶことができる場をつくる

### 4 未来につなぐ



かけがえのない自然や  
文化を保全する

# 1 森林整備拡大 点から面へ

なるべく多くの森林を、  
健全な状態へ。

市民や企業など多様な主体と連携し、管理が行き届いた森林を  
広げていきます。



## ▲ 森林整備を拡大するための取り組み



### 森林所有者とつくる 森林の整備計画

中長期的なビジョンをもって整備に取り組むため、所有者と意見を交わし、10～20年スパンの整備計画をまとめていきます。



### 企業や市民との連携により 森林整備を加速

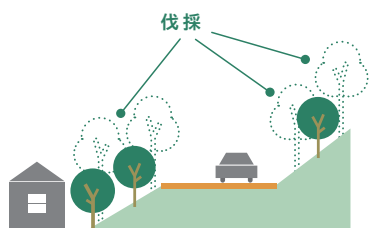
森の手入れや地域資源の利用に関心をもっている企業や団体、市民と一緒に取り組むための仕組みやメニューをつくります。



### 課題解決に向けた探究

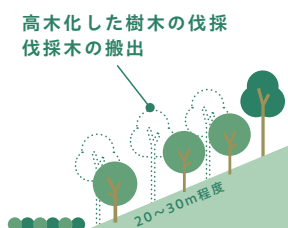
神戸ならではの森林整備や資源利用の課題に対して、探究的な視点での試行と検証を繰り返し、知見やノウハウを蓄積します。

## 森林整備パターン例



### 「防災・減災優先エリア」の 整備イメージ

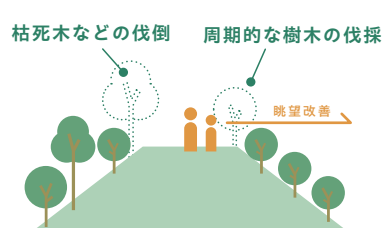
建物や道路の付近において、枯木や高木を伐採し、倒木等のリスクを軽減します。伐採後は定期的に伐採し、樹高を低く抑えます。



農村エリアの山麓部の例

### 「資源を循環利用する」の 整備イメージ

大きくなった広葉樹を伐採し、家具材などとして利用します。田畑のまわりでは日当たりが改善され、野生動物が潜みにくい状態となります。



ハイキング道沿いの例

### 「森と関わる機会を つくる」の整備イメージ

枯木の伐採やササの刈り取りにより、ハイカーの安全を確保します。尾根沿いでは所々で定期的に伐採して木の高さを抑え、眺望を維持します。

# 2 循環利用 もっと、使う

「KOBE WOOD」を使って、  
森もまちも元気に。

森には私たちの暮らしを支える資源がたくさん。  
木材、竹、炭などを使うことで、森が若返り、まちが活気づきます。

## ▲ 循環利用に向けた取り組み



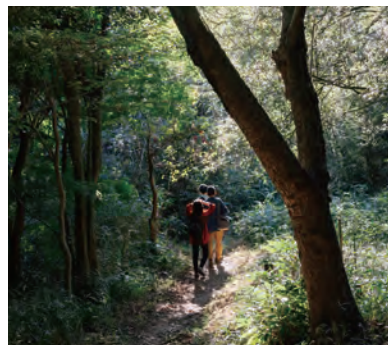
### 公共も、民間も もっと使う

地域の木材をまちの色々な場所で効果的に活用するための方法を整理して、市民に広く伝えていきます。



### 木材以外の多様な資源で 新たな活用チャレンジ

建築や家具に利用できない小径木、枝葉、竹なども資源として有効に活用するために様々なチャレンジをおこないます。



### 豊かな森林空間の 効果的な活用を促進

森林・里山ツーリズムなど効果的に森林空間を活用し、市民と一緒に楽しむことで、健全な森林を保ちます。

## KOBE WOOD

神戸の森林・里山・まちを未来につなぐことを目的として、神戸市内の森林やまちから搬出された木材などの自然資源の活用を促進するために生まれた、神戸産の木材等に関するブランドです。

### KOBE WOODの例

- 原木・板材・製品
- 森林や里山の木、まち（公園など）の木



KOBE WOOD製品



KOBE WOODの印字



## KOBE WOOD

Forest tree  
Konara  
Mt.Rokko

出自場所・樹種・地域を  
添えることができます。

# 3 人材育成 現役も次世代も

## 技術者・次世代を育み、 仲間を増やす。

森を手入れし、使っていくためには、森に関わる担い手が不可欠です。  
技術者のスキルアップに取り組み、新たな担い手を育てていきます。



### ▲ 人材育成に向けた取り組み



#### 森林整備を担う 技術者の育成

目標とする森林整備を実現するために、事業者向けの講習会を開催し、担い手の増加や技術力向上を図ります。



#### 資源利用を担う事業者・ コーディネーターの育成

種類の多い広葉樹の利用を進めるために、樹種の判別や立木・丸太の評価、仕分けなどについての講習を実施します。



#### 次世代が関わる機会の創出

大学・高専・高校等の学生・生徒が取り組む研究や探究の支援など、学生等が森林や資源に関わる機会をつくります。

### 大学等と連携した関わりの創出・育成

学生が森林や資源に関わる機会として、市内森林の研究・実習フィールドとしての提供や市の森林施策に関する出張授業などを行います。

#### 取組例

- 森林フィールドの提供、マッチング
- 製作活動への木材の提供
- 共同研究の推進、学生を対象とした施策・プロダクト開発、コンペの開催 など



大学での出張授業



市内木材ヤードの見学の受入れ



# 4 普及啓発 森と木をみんなの日常に

こどもも、おとなも、  
森に触れる機会を。

森のことを学び、森で楽しむきっかけを増やします。  
森に行くことや木を使うことが暮らしの当たり前に。



## ▲ 普及啓発に向けた取り組み



### 地域の森林への誇りと 想いを育む

森林や木のことを知り、触れる機会を増やすため、学校での出前授業や、森林体験・木育プログラムの開催を推進します。



### 情報を届ける

森林をテーマとしたシンポジウムの開催や、広報紙やSNSなどを使った発信により、森林の価値や魅力を伝えます。



### 森林所有者との 対話の場をつくる

地域の森林の価値や課題を伝え、将来の森林のあり方や森林整備・資源利用の計画などについて話し合う場を設けます。

## 森林体験・木育の推進

森や木に触れる機会を増やすために、森での自然観察、伐採、木や竹を使った工作、薪や柴での火起こしや食事づくりなどの体験プログラムを開催します。

### 取組例

- 森での自然観察、伐採体験
- 木や竹を使った工作
- 薪や柴での火起こし など



火起こし体験



神戸の木を使ったベンチづくり



里山の手入れ体験

# 5 基盤づくり 一緒に考え、動く



## 森に関わる人たちをつなぐ。

公共も民間も、森の手入れをする人も木材を使う人も、  
みんなが一緒にアイデアを出し、チャレンジできる場をつくります。



## ▲ 基盤づくりに向けた取り組み



### こうべ森と木のプラットフォームによる公民共創の推進

様々な情報やつながりを育む場をつくることによって、川上から川下の連携による新たな取り組みを創出します。

参加者の知恵やノウハウを森林所有者や資源の使い手につなぎ、森林整備や資源利用に関わるコミュニティを形成します。

### 市役所庁内外の つながりを強化

森林、防災、農政、建築などの関係部局に加え、区役所、各出張所、関係機関とも連携し、地域との連携を強化します。

## こうべ森と木のプラットフォーム

地域の森林に関わる、または関わりたいと思う方々が出会い、意見交換をする場です。  
多様な人が、出会い、知恵を絞り、森林を育み・活かす取り組みを生み出すことを目指しています。

### 取組例

- 森林整備やKOBE WOOD利用のコーディネート
- 広葉樹利用の研修会開催
- こうべ木のマルシェ開催 など



多様な人が意見を出し合う場



こうべ木のマルシェの様子



